秀吉清正記念館　常設展示目録

第179期 ＜令和8年11月17日～令和9年1月11日＞

凡例: 寸法はセンチメートル。複製・模写は原資料のデータです。
年代は原則として年号（西暦）で表記しています。
資料の所蔵者は、特記のない場合は秀吉清正記念館です。
「**新**」は今期に新しく展示した資料です。

1.信長と秀吉

織田信長画像	1幅　縦73.3　横36.8　絹本着色（複製　原資料:神戸市立博物館蔵　重要文化財） 桃山時代　天正11年(1583)5月賛
織田信長朱印状	1幅　縦25.5　横72.5（複製　原資料:お茶の水大学図書館蔵　重要美術品） 室町時代　元亀元年（1570）正月23日 ＊信長が将軍足利義昭に、政治のことを自分に任せるよう認めさせたもの。
狭間筒	1挺　長168.2 江戸時代初期　伝犬山城城備銃
火縄銃	1挺　長130.0 江戸時代　国友重光作　飛騨高山代官所旧蔵
「**新**」「中国出陣」	1面　縦40.0　横52.0　紙本着色　額装　「秀吉と清正の絵物語」シリーズより 昭和後期　森村宜永筆　＊秀吉が毛利氏攻め総大将として岡山に出陣中本能寺の変が起きた
明智光秀画像	1幅　縦80.0　横38.0　絹本着色（複製　原資料:大阪府岸和田市・本徳寺蔵） 江戸時代

2. 秀吉の天下統一　(1)全国制覇

豊臣秀吉画像	1幅　縦81.6　横36.9　絹本着色（複製　原資料:神戸市立博物館蔵） 桃山時代 ＊豊臣秀吉没後の慶長3～6年(1598～1601)の間に描かれたもの。
馬藺後立兜	1頭　鉢高21.0　鉢最大径20.0　馬藺高80.5（複製　原資料:大阪城天守閣蔵） 桃山時代 ＊豊臣秀吉が所用し、九州攻めの際に西村重就にほうびとして与えたもの。
「**新**」「北野大茶会」	1面　縦40.0　横52.0　紙本着色　額装　「秀吉と清正の絵物語」シリーズより 昭和後期　森村宜永筆　＊秀吉自ら茶をたてて人々にふるまった。天下泰平を象徴する行事
金箔押菊花紋飾瓦	1枚　径45.0（複製　原資料:大阪城天守閣蔵） 桃山時代 ＊昭和29年、合同庁舎1号館の建設工事(武家屋敷跡)で出土したいわゆる金箔瓦である。
豊臣秀長画像	1幅　縦117.5　横54.0（複製　原資料:春岳院蔵　奈良県大和郡山市指定文化財） 江戸時代中期　狩野貞信筆 ＊秀吉の異父弟とされる秀長の画像。生涯にわたって秀吉を支え続けた。
裁断橋擬宝珠 （漢文銘）	1基　高72.5　径34.8　青銅製　名古屋市博物館蔵 江戸時代前期　元和8年(1622）名古屋市指定文化財4基のうち ＊小田原攻めの陣中で病死した堀尾金助の33回忌に、母が掛け替えた橋に心情を刻んだもの

2. 秀吉の天下統一　(2)検地と刀狩り

検地基準尺	1点　長45.5　横5.8　厚0.4（複製　原資料:鹿児島市・尚古集成館蔵　重要文化財） 桃山時代　石田三成署名花押
尾張国海東郡内 津島北口検地帳	1綴　縦27.3　横21.0（複製　原資料:愛知県津島市・津島神社蔵　愛知県指定文化財） 桃山時代　天正20年(1592)4月
天正大判	1枚　縦16.3　横10.0（複製　原資料:日本銀行金融研究所蔵） 桃山時代　天正16年(1588)　菱大判　墨書

2. 秀吉の天下統一 (3)対外政策

明王贈豊太閤冊封文	1巻 縦31.0 横115.5 (複製 原資料:大阪歴史博物館蔵 重要文化財) 中国・明代 万暦23年(1595)正月21日付 豊臣秀吉宛
加藤清正等連署 血判起請文	1巻 縦29.6 横145.1 (複製 原資料:大阪城天守閣蔵) 桃山時代 文禄4年(1595)8月6日付

3. 関ヶ原の戦い

豊臣秀吉自筆 辞世和歌詠草	1幅 縦44.8 横17.6 (複製 原資料:大阪城天守閣蔵) 桃山時代
徳川家康画像	1幅 縦89.7 横38.8 絹本着色 狩野探幽筆 (複製 原資料:徳川美術館蔵) 江戸時代
石田三成自筆密書	1巻 縦14.8 横204.7 (複製 原資料:真田宝物館蔵 長野県宝) 桃山時代 慶長5年(1600)7月晦日付 真田昌幸宛

4.清正と尾張の武将

「新」加藤清正画像	1幅 縦135.6 横73.3 (複製 原資料:熊本市・本妙寺蔵) 江戸時代前期
虎の顎骨	1点 長21.9 幅15.0 高11.2 桃山時代 ＊朝鮮出兵中の清正が仕留めた虎の骨。家臣の大木兼能がたまわった物。
「新」「地震加藤」	1面 縦40.0 横52.0 紙本着色 額装 昭和後期 森村宜永筆 「秀吉と清正の絵物語」シリーズより ＊大地震で大破した伏見城の秀吉の元に一番に駆けつけたのが清正だった、と伝える。
長烏帽子形兜	1頭 高70.0 漆・紙・鉄製 伝加藤清正所用(模造 原資料:名古屋市・徳川美術館蔵) 桃山から江戸時代前期 ＊実物よりやや小ぶりに製作されているようである。
前立	1点 径18.0 木製 伝加藤清正所用 (模造 原資料:名古屋市・妙行寺蔵)
加藤清正像	1躯 高56.2 青銅製 昭和後期 高藤鎮夫作 ＊名古屋城と熊本城とにある清正の巨大ブロンズ像のひな形ともいえる小像。

5. 太閤記の世界

「新」「清正朝鮮にて 富士を望む」	1面 縦40.0 横52.0 絹本着色 額装 昭和後期 林雲鳳筆 「秀吉と清正の絵物語」シリーズより ＊朝鮮半島最北から海の彼方の富士(実際には見えない)を見て故郷を思う清正、の伝説。
「新」土人形 「千成太閤」「虎清正」	2体 高48.8 横30.0 奥行15.7(千成太閤)、高46.8 横37.1 奥行16.8(虎加藤) 昭和45年(1970) 愛知県稲沢市起(起土人形師)中島一夫作 ＊最大級の土人形

名古屋市秀吉清正記念館 常設展示目録 第179期

〒453-0053 名古屋市中村区中村町字茶ノ木25(中村公園文化プラザ2階)

電話 052-411-0035 FAX 052-411-9987
開館時間 9時30分～17時

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は直後の平日)、毎月第4火曜日(祝日を除く)、
年末年始休館(12月29日～令和9年1月3日)、館内点検休館(令和9年1月12日～1月26日)